

大熊町を 端から端まで ● 知りつくぞう！

● 第2回

大野一区 区長 鈴木 国郎

大野二区 区長 井戸川洋一

大熊町地図



百年記念碑



一方、聖徳太子神社の祭礼は、昭和二十一年四月十五日桜花爛漫の頃、下野上四区、五区の人たちが中心となり、戦後復興を願い第一回の祭りが行われたのが始まりと言わされており、その後、両区の代

ふるさと 再発見

地区集会所を訪ねて



大野駅西口

大野一・二地区は戸数三五〇余り、大野駅、商店街があり、時代の変遷と共に町の中心として発展してきた。

聖徳太子碑建立と祭礼の経緯

聖徳太子碑は明治三十七年十一月吉日常磐線大野駅の開駅にあたり当時の工事関係者及び地元有志等が将来の地域の発展と工事の安全等を願い駅の西北側に建立。家内安全と商売繁昌の氏神様として地

碑のある山林は森藤氏から町に寄贈され公園として管理されることとなり、また、昭和五十一年には地域住民の永年の願望であった社務所の新築及び御神輿の購入を実現するとともに佐山英夫氏及びその

昭和四十六年三月聖徳太子親戚にあたる太田和男氏の尽力により財団法人聖徳太子会本部(岐阜県)から聖徳太子のブロンズ像等を入手して寄贈をうけ聖徳太子神社の御神体として祀られることとなつた。

その後昭和五十九年七月鳥居及び参道階段建設により現在の聖徳太子神社及び大野公園の形が整い平成十六年をもつて建立百年を数えることとなつた。



聖徳太子碑

表者をもつて聖徳太子祭礼委員会を組織し毎年桜の咲く四月十五日に近い日曜日を祭りの日と定め、余興としてのど自慢、相撲、宝財踊り、仮装

行列、神輿の町内渡御等年々盛大な祭りとして発展、定着してきた。（百年記念碑より原文のまま）

大野一区・二区は主に合同で行事を行つています。その活動内容を紹介します。

聖徳太子祭

四月半ば桜花満開の日曜日。



美化運動（花植え）

駅東側の小高い丘にある大野公園で、聖徳太子祭典委員会のメンバーを中心に、

地区的班長さんの協力や子供達の参加で賑やかに行われる。境内は

ぼんぼりで飾られ祭り

気分を大いに盛り上げてくれる。余興として宝財踊りを覚えている方も多いでしょう。駅

前の青年会だけでなく、他地区的青年会も加わっての振やかな道中だったが、現在は行われていない。

かわいい子ども御輿も小字化の影響で担ぎ手の確保に苦労するそ

うです。

三世代ふれあい事業

十二月二十四日、老人会、子供会の親子、婦人会など地区の人々が集い楽しい時をすごしている。午前中、役場裏の第二体育館で、ゲームや縄跳びなどで汗を流した後、駅前集会所で、つきたての餅を食べながら話し、三世代の交流を図っている。以前は臼と杵で餅をつき、子どもたちも



聖徳太子初詣

暮れの三十日に境内の掃除をして清められる。元日の早朝から、地区の人々がお詣りに訪れる。社務所には聖徳太子委員会の方々が詰めていて、参拝者に御神酒を振るまい、お札としやもじを手渡して新年と共に祝う。

どんと祭

一月半ば、鏡開きの時、正月飾りや古い御札等を燃やし



て、一年の無病息災を祈るどんと祭は、図書館前の大野鮒沢公園で早朝から行われる。最近は予め、飾り物のプラスチック等を取り除いて有害な煙を出さないよう環境に配慮している。

